

山形市

野草園だより

40号



シンボルマーク
原画 阿部功雲氏

サラサドウダン (ツツジ科)

花期／6月～7月

本州の近畿以東の山地に生える落葉低木です。株により花の色が少しずつ違い、いろんな色の花が見られます。園内のものも株ごとに違いがあるようです。花の紅色の縦縞（たてじま）が更紗（さらさ）模様に似ていることからこの名がついたそうです。野草園ではマグノリア通り、ツツジの丘で見ることができます。



写真コンテスト最優秀賞・優秀作品

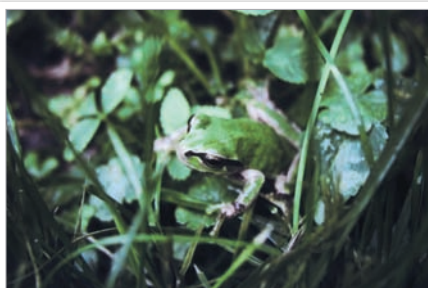


最優秀作品 沼沢士郎さん「チーゼル」



優秀作品 佐藤悦子さん
「アートの美しさ」

優秀作品 山川祐幸さん
「初雪に跳ねる」



小中学生の部 最優秀作品
谷口奈生さん「雨の森からこんにちは」

● 審査を終えて ●

野草園の魅力を探る写真コンテストが、回を重ねて17回を迎えました。今年の応募状況は、一般の部では32人から120点、小中学生の部では4人から16点と、残念ながら昨年よりは一般の部、小中学生の部とも少なかったようです。

一般の部で最優秀となった沼沢士郎さんの「チーゼル」は、逆光を巧みに生かしたことで、落ちついた色彩と背景処理がきれいで、またリズムカルな構図によって、この花の持つ繊細な特徴がよく生きてすばらしい作品です。

優秀の山川祐幸さんの「初雪に跳ねる」は、初雪の中を走ってくる少女を正面から写し止めたシャッターチャンス、そして少女の笑顔がすばらしい作品です。同じく優秀の佐藤悦子さんの「アートの美しさ」は最優秀の作品と同じチーゼルの秋をアップで写したのですが、これも色彩、構図ともに見事な描写で秀作です。

小中学生の部、最優秀は谷口奈生さんの「雨の森からこんにちは」ですが、水の中からカエルが大きく顔を出したところ、画題そのもので、ユーモアがあり構図、シャッターチャンスも適切で優れた作品です。画題も谷口さんの知性、感性がうかがわれ、大変良かったと思います。

入賞者のみなさん、本当におめでとうございます。今年は全般的に花の作品が多く、それだけに秀作も多かったのですが、中にはカメラぶれやピントのあまいものもあり、折角の作品を失敗させています。これからもぜひ作品作りにがんばってほしいと思います。

平成22年11月1日

審査員代表 金田春雄



自然のたくみさ・ふしぎさ



◆林内に咲く清楚な花

野草園内の自然ふれあいゾーンにある杉林で見られる植物の中から、今回はヤマシャクヤク、ベニバナヤマシャクヤクについて紹介してみたいと思います。

ヤマシャクヤクは本州の岩手、秋田県以南、四国、九州、朝鮮半島に分布し、山地や深山の林内に生えるボタン科の多年草です。5月中旬～下旬に茎の先に直径5cm位の白い清楚な花をつけますが、完全に開くことはありません。開花期間は短く、2～3日で散ってしまいます。果実は秋になると裂け、中の種子がはじけます。種子は、完熟のものは黒く、不稔のものは赤く色づき、花に劣らず、きれいです。日本で古くから栽培されているシャクヤクに似ていて、日本の山地に自生していることから、この名がつけました。以前は野草園のある西藏王地区でも沢山見られたが、最近は里山の荒廃と心ない人たちの園芸採取により、ほとんど見られなくなりました。山形県の絶滅危惧植物に指定されています。



ヤマシャクヤク 花



ヤマシャクヤク 果実

近縁のベニバナヤマシャクヤクも園芸採集と里山の自然環境の変化により激減していて、野生ではめったに目にするのできない植物です。花はヤマシャクヤクより2週間ほど遅れて咲きます。



ベニバナヤマシャクヤク

ヤマシャクヤクの名前の由来にもなったシャクヤクは、朝鮮半島北部、中国北東部、シベリア地方原産の多年草です。古くに中国から薬用として日本に渡来し、後に観賞用として栽培され、多くの園芸品種が生まれています。「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」というように、シャクヤクは枝分かれせずに上に伸びることから、すらりとした美しい女性にたとえられたようです。花は大輪で存在感のある豪華な花を咲かせます。野草園では薬草コーナーに植栽されています。



シャクヤク



春～初夏に咲く絶滅危惧種の植物たち



ミチノクフクジュソウ(キンボウゲ科)

フクジュソウより開花が2週間位遅く、茎が根元から多数分岐しています。



ミスミソウ(キンボウゲ科)

葉は3つに裂け先端がとがることから^{みすみそう}三角草の名がついたそうです。日本海側のものは白色、淡紫色、淡紅色等花の色が様々です。



トウゴクマムシグサ(サトイモ科)

茎の模様がマムシの模様に似ていることから、この名がついたそうです。



ナンブソウ(メギ科)

東北地方や北海道の山地に生える多年草です。山形市立第六中学校の校章になっています。



ヒメカイユ(サトイモ科)

ミズバショウを小さくしたような花が咲きます。



サルメンエビネ(ラン科)

唇弁が猿の顔のように赤いことからついた名です。



春～初夏に咲く絶滅危惧種の植物たち



センダイハギ(マメ科)

東北地方、北海道の海岸の砂地に生え、黄色の蝶形花を咲かせます。



チョウジソウ(キョウチクトウ科)

本州、九州のやや湿った草地に生える多年草です。自然の花には珍しいブルーの花を咲かせます。



カキツバタ(アヤメ科)

昔この花の汁をこすりつけて布を染めたことから「書き付け花」がなまってこの名がついたそうです。



ヒメサユリ(ユリ科)

山形、福島、新潟県の内陸部にのみ分布しています。名はササユリに似て小形であることに由来しています。



トビシマカンゾウ(ユリ科)

飛島、佐渡島の海岸近くに自生し、良く似たニッコウキスゲと比べるとやや大きいです。



ムシャリンドウ(シソ科)

滋賀県の武佐町で発見され、花がリンドウに似ていることからこの名がついたそうです。

催しものスナップ



木工工作教室



餅つき



ポニー乗馬



お知らせ

平成23年度の開園は4月1日(金)です。
当日、先着100名に花苗をプレゼントします。

催し物

展示

- 平成22年度 写真コンテスト入賞作品展
4/2(土)～4/29(金)
- 春の山野草展
5/3(火)～5/5(木)
- 南東北3県ポタニカルアート作品展
9/11(日)～9/25(日)
- きのご写真展
10/8(土)～10/23(日)
- 平成23年度 写真コンテスト入賞作品展
11/1(火)～11/23(水)

観察会

- ガイドウォーク
4月～11月まで 毎週日曜日
- 四季観察会
5/14(土) 7/16(土)
9/17(土) 10/15(土)
2/19(日)
- ホタル観察会
7/1(金)～3(日) 7/8(金)～10(日)

体験教室

- 星空を見る会 9/24(土)
- 早朝バードウォッチング
4/30(土)
- ハーブ石けん作り
4/29(金)
- 野草園オリエンテーリング
5/3(火) 10/9(日)
- ミニSL運行
5/2(月) 5/3(火)
10/9(日) 10/10(月)
- ポニー乗馬体験
4/29(金) 5/5(木)
10/8(土)
- ガーデニング教室 6/11(土)
- 山野草の育て方教室
5/24(火)
- ラベンダー摘みとスティック作り
7/30(土)
- 木工工作教室 8/13(土)
- 工作体験
5/5(木) 10/9(日)

- そば打ち体験 10/1(土)
- プリザーブドフラワー教室
9/4(日)
- 工作コーナー 夏休み期間中

コンテスト

- 野草園の魅力を探る
写真コンテスト
応募締切り10/10(月)

その他

- 春の野草園祭り
4/29(金)～5/5(木)
- 秋の野草園祭り
10/8(土)～10/10(月)
- 植物観察ときのご鍋
10/16(日)
- 落ち葉たき 11/5(土)

※都合により内容の一部が
変更になる場合があります。

この花を 探せ!

今回の花は見つけられるかな



アズマイチゲ(開花時期 4月)



カッソウ(開花時期 5月)



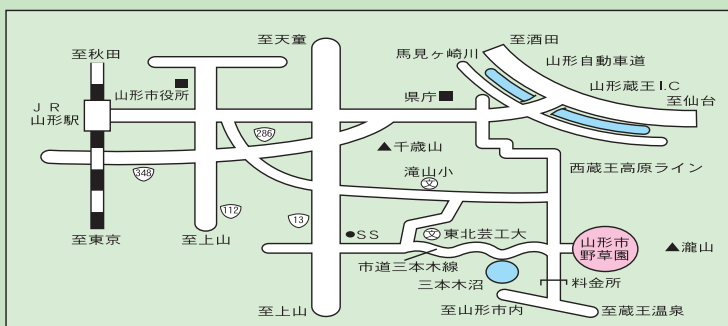
ミツガンワ(開花時期 5月)

《開園時間等》

- ・開園時間
4月～5月 9:00～16:30
6月～8月 9:00～18:30
9月～11月 9:00～16:30
- ・休園日／毎週月曜日
ただし、月曜日が祝日・休日の場合は
その翌平日
※平成23年度より4月の第3月曜日から
6月の第2月曜日まで休まず開園します。
- ・冬期間休園／12月～3月
- ・入園料／大人 300円 高校生以下 無料
団体割引(20人以上の場合)
大人 240円

《交通案内》

- ・JR山形駅より山形交通路線バス蔵王・野草園行き終点下車
- ・山形自動車道蔵王I.Cより蔵王高原ラインを蔵王温泉方面へ15分
- ・滝山小・芸工大方面より岩波経由又は、ヒルズサンピア方面より
市道三本木線経由で自家用車15分



野草園だより

編集・発行／山形市野草園

40号／平成23年3月発行

〒990-2406 山形市大字神尾832番地の3
TEL 023(634)4120 ・ FAX 023(634)4121

野草園のホームページ
<http://www.yasouen.jp>